



『海からの風』川畷 照代 画

理念

- 安心・安全・やすらぎ・心のこもったサービスを提供します。
- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療を提供します。
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します。

運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします。
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント(説明・同意・納得)を含む安全管理を徹底します。
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します。
- 社会の変化にしなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します。
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします。
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します。
- 高齢化社会を迎え、安心・安全と心のこもった医療・介護を提供します。

川崑理事長 『旭日雙光章受章記念祝賀会』

昨年（2018）の「秋の叙勲」で川崑理事長が「旭日雙光章」を受章した事を受けて今年（2019）2月17日、グランプラザ中津ホテルにて末廣朋未氏（中津市医師会会長）を発起人代表、仲浩氏（中津商工会議所会頭）、畑洋一氏（大分県病院協会副会長）、辛

嶋崇氏（中津歯科医師会会長）、川口純市氏（中津薬剤師会会長）、時松聖潤氏（中津ロータリークラブ会長）、津末輝彦氏（饗会会長）、林秀明氏（中津市議会議員・中津地方文化財協議会副会長）、田村裕昭氏（社会医療法人玄真堂理事）以上9名の発起人の呼びかけによ

300人を超す来場者が次々と入場され満杯の会場となりました。17時15分からウェイティ

病として認定してもらうなど難病の治療法を確立し、また



勲章と賞状
(旭日雙光章)



ケーナ演奏、篠笛演奏



一節截演奏



雲八幡宮司による雅楽演奏



家族と一緒に

る祝賀会が開催された。会場の前後2カ所の大型スクリーンに玄真堂の歴史が記録されたDVDが流れている中を、

最初に発起人代表の末廣朋未氏が「川崑先生は骨髄炎に対する局所持続洗浄療法の保険採用や減圧症（潜水病）による骨壊死を日本で初めて労災

ングセレモニーとしてリバーハーモニーによるコーラス2曲（「さくら」「あすという日が」）が演奏され、会場の雰囲気盛り上げていた。川口喜代美様による司会で開演し、

中津市医師会会長としての活動など地域医療はもとより国際的な活動が認められて今日の受章となり、中津市医師会として大変誇りに思います」と挨拶。続いて近藤稔大分県医師会会長は「医療業界だけでなく、医学史の研究や教育、行政など多方面に渡り活躍されています。また大分合同新聞文化賞をはじめ杉田玄白賞など国内だけでなく国際的に

も各種の学術賞を数多く受賞される活躍をしています」と川崑理事長の業績を詳細に披露しての挨拶。続いて奥塚正典中津市市長は「多方面に渡り発信力のある中津市のスポークスマンとして見習わなければと思っています」と祝辞の挨拶。更に藤野英司中津



奥塚中津市市長
挨拶



岩本名誉教授
挨拶



津村教授
乾杯の挨拶



最後に挨拶する
川島眞之院長



近藤県医師会
会長の挨拶

市議会議長と続き、最後に岩本幸英九州大学名誉教授・九州労災病院院長は「九州労災病院の時に熱血指導を受け、それ以来尊敬申し上げています」と来賓の祝辞挨拶をされた。続いて届いた多くの祝電より岩屋毅防衛大臣など一部が司会者によって披露された。これらの祝辞を受けて川島理事長が、初めは小学校の恩師である松山均先生のお陰で本を読み文章を書く習慣を身につけてもらったことや、体が弱かったから山登りや空手で体を鍛えた学生時代の話までにさかのぼり「医師として骨髄炎の治療法や減圧性骨壊死の病因とその治療法の確立、そして地域医療に対しては医師

会理事として向笠寛会長の指導のもとにファビオオラ看護学校の設立に尽力した事などが認められ受章を賜ったと思っておりますが、これもひとえに大分大学や産業医科大学や九州大学、東京医科歯科大学の多くの諸先輩の方々、そして中津市や大分県の医師会の方々、また世界の友人の方々は言うに及ばず当病院の職員と家族のお陰です」と謝辞を述べた。この後、川島理事長ご夫妻のお孫さんにあたる今吉蘭人君、善人君、川島眞里瑛ちゃんの3人から花束贈呈があり、ご夫妻は長時間待たされていたであろう孫達を氣遣いながらも満面の笑みを浮



実行委員会メンバー



叙勲 皇居内集合写真（前列左から6番目）

かべて花束を受けていた。その後、突然会場の前後にスクリーンが下ろされたかと思うと北部小学校からのビデオメッセージが映し出されるサ



ご夫妻で叙勲の記念写真

プライズがあり、理事長が北部小学校にした寄付金で色々な校具が買い揃えられたお礼と今回の受章の祝辞を兼ねたDVDが披露され、驚きながらも破顔一笑、動画に見入っていた。セレモニーの最後は秋永勝彦雲八幡宮の宮司他2名により祝賀会らしく雅楽「越天楽」が演奏され、会場に雅（みやび）な雰囲気醸し出したところで津村弘大分大学理事・教授の乾杯の音頭を合図に祝宴に入り、一気に和やかなムードとなった。その祝宴のアトラクションとして「中津一節截の会」と伊藤正敏先生の一節截や「アンデスの会」とリチャード・ビチャコルタ先生によるケーナの演奏、中島勝己先生による篠笛の独奏など

が行われ、会場の祝賀ムードを盛り上げていた。宴の最中、理事長ご夫妻は各テーブルを回りながら末席まで謝辞の挨拶をされ、夫人も内助の功を發揮していた。宴も半ばを過ぎたところで川島眞之院長からお礼の挨拶があり、最後は仲浩中津商工会議所会頭による



藤野市議会議長の
挨拶



仲商工会議所会頭の
挨拶と万歳三唱

川島理事長の
弥栄（いやさ
か）を祈念し
ての万歳三唱
で約3時間に
及ぶ叙勲祝賀
会は無事にお
開きとなった。
（文責 秘書室
竹下直光）

受章挨拶

このたび11月3日、秋の叙勲として天皇陛下より旭日雙光章を賜り、授章式に参加し大変な荣誉に浴した事を皆様にお伝えいたします。

1969年、東京医科歯科大学卒業と同時に大学紛争の関係で、7名の入局予定者は全員外部で研修を受けざるを得なくなり、私は中川助教授の紹介で虎の門病院にて研修を受け、夜は大学の難治疾患研究所で研究する事になりました。虎の門病院では上腕骨の骨髄炎で過去18回もの手術を受けてい



発起人全員で記念写真

た20歳の女性患者さんに出会いました。私は先輩の指導の下に、その患者さんに従来通りの搔爬術を2回行いましたが再発し、大変辛い思いをさせてしまいました。そこでその当時、アメリカで発表されていた局所持続洗浄療法を3回目の手術後に行ったところ、彼女を長年の難病から見事に解放できた事に端を発し、川島式局所持続洗浄チューブを考案しました。これを虎の門病院のみならず、1972年より勤務先が九



発起人代表
市医師会
末廣中津の
会長の挨拶

州労災病院に替わってからの9年間、260例の骨髄炎の患者さんに対して局所持続洗浄療法を行い、その結果、従来の搔爬術のみでは40%の再発率が、本療法にて10%以下に抑える事が出来るようになり、その後この治療法は保険にも採用され、全国的にも活用されるようになりました。日本の学会でも多々発表し、数多くの専門書に分担執筆をする事が出来ま

した。また、アメリカのクリニカルオルソペディックス、インターナショナルオルソペディックスなどの国際雑誌にも掲載・紹介され、専門書・オルソペディックスインフェクションでも掲載されました。更にこの治療法は中国にも広まり、川島整形外科病院に研修に来られた王興義先生が骨髄炎の専門病院を立ち上げ、2000床の病院を北京に設立し、それらを支援する事も出来ました。

もう一つの私のテーマは1972年に九州労災病院に転勤後、減圧症(潜水病)における骨壊死の病態生理並びに治療法及び疫学的な研究で、東京医科歯科大学の同級生の眞野喜洋教授と共に、1973年からほぼ毎年、アメリカの学会で発表するようになりまし

た。1975年にはこの病気を日本で初めての労災病として認定してもらう事が出来ました。この研究は日米共同研究に格上げされ、ウイスコンシン大学のレーナ博士やアレックス博士などと共に、20年に渡って今もお話しています。私は眞野教授の後を継いで2013年から日本高気圧環

境・潜水医学会の代表理事として学会をけん引する役割を任され、2017年10月からはアジア太平洋潜水・高気圧環境医学会の理事長・会長として、2019年に中津で国際学会を開催する予定になっています。米国における国際潜水・高気圧環境医学会では2回の学術賞を頂き、2015年からは名誉会員として、ヤングサイエンティストアワード(眞野・川島学術賞)のスポンサーとして、毎年、国際学会において賞を授与させて頂いています。

地域医療においても1983年から中津市医師会理事として向笠寛会長を支え、中津地区の救急医療の整備並びに中津市医師会立中津ファビオラ看護学校と健診センターの設立を行いました。看護学校名を「ファビオラ」と私に命名させて頂いた事は、中津市医師会の会員の皆様のお陰だと思

います。2002年から6年間、中津市医師会会長として地域医療に携り、2010年からは大分県病院協会会長として毎年2000人を超す大分県病院学会を別府で主催し、医療の問題



理事長挨拶

点と今後のマネジメントのあり方を討議する事を続けています。

以上のように私のやってきた様々な事が学術のみならず地域医療においても認められ、近藤稔大分県医師会会長の推薦で、今回の受章を賜ったのであろうと考えています。同時に支援してくださった大分大学、産業医科大学、九州大学、東京医科歯科大学などの多くの諸先輩の方々、当病院の職員と家族のお陰であると心から感謝を申し上げます。

川島 眞人



理事長ご夫妻

川 眞 人 氏 の 経 歴

学 歴

1963年 大分県立中津北高等学校卒業
1969年 東京医科歯科大学医学部卒業
1970年 東京医科歯科大学難治疾患研究所専攻生
1976年 医学博士（東京医科歯科大学）

職 歴

1969年 虎の門病院整形外科 専修医
1972年 九州労災病院整形外科 医員
1979年 九州労災病院整形外科 副部長
1981年 川 眞 整 形 外 科 病 院 院 長
1983年 川 眞 整 形 外 科 病 院 院 長
1986年 医療法人 玄真堂 川 眞 整 形 外 科 病 院 理 事 長
2009年 医療法人 玄真堂 理事長・かわしまクリニック所長
2011年 特定医療法人 玄真堂 川 眞 整 形 外 科 病 院 理 事 長
2012年 社会医療法人 玄真堂 川 眞 整 形 外 科 病 院 理 事 長

学 会 お よ び 社 会 に お け る 活 動 等

大分大学医学部 臨床教授
大分大学医学部 非常勤講師（1988～）
高神大学（釜山）医学部 客員教授
中国河南医科大学骨科研究所 名誉所長・教授
中国南召県骨科医院 名誉院長
北京昌平聖濟骨傷医院 名誉院長
河北燕达病院 客員教授
中国海洋科学技術センター 名誉主任
新日米潜水・宇宙技術専門家会議 委員
国際潜水・高気圧環境医学会 名誉会員（2015～）
アジア太平洋潜水・高気圧環境医学会 理事長（2017.10～）
国際整形災害外科学会 名誉会員
西太平洋整形外科学会 会員
日本高気圧環境・潜水医学会 名誉功労会員（2017.11～）
九州高気圧環境医学会 評議員・世話人
一般社団法人 日本潜水協会 顧問
日本骨・関節感染症学会 名誉会員（2010.6～）
日本職業・災害医学会 功労会員（2014.11～）
日本臨床整形外科学会 名誉会員（2015.5～）
日本医史学会 理事（2006～）
整形災害外科学研究助成財団 理事
大分県病院協会 会長（2010.6～）
一般社団法人 日本口腔ケア学会 評議員
一般社団法人 Summer in JAPAN 理事

大分産業保健総合支援センター 産業保健相談員（2014.4～）
大分県医療審議会 委員（2017.2.1～2019.1.31）
中津市地方文化財協議会 会長（2010.6～）
マンダラゲの会 会長

・1975年 医学書院優秀論文賞受賞
・1987年 日本骨・関節感染症研究会会長（現学会）
・1990年 第3回九州・沖縄地区高気圧環境医学懇話会会長
・1994年 第29回日本高気圧環境医学会会長
・1996年 第9回九州・沖縄地区高気圧環境医学懇話会会長
・1994～1998年 中津市教育委員会教育委員
・1996～1997年 中津市教育委員会委員長
・1999年 大分合同新聞文化賞受賞
・2002年 国際潜水高気圧環境医学会
2002年チャールズ・シリング賞受賞
・2003年 第4回日本高気圧環境医学会九州地方会会長
・2003～2004年 中津ロータリークラブ会長（50周年）
・1981～2004年 産業医科大学非常勤講師
・1985～2005年 鹿児島大学非常勤講師
・2004～2008年 福岡歯科大学非常勤講師
・2004年～ 2720地区ロータリー・世界奉仕委員長
・2006年 5/13～5/14 第107回日本医史学会会長
・2002～2008年 中津市医師会会長
・2002～2008年 中津フェビオラ看護学校長
・2008年 2008年度日本臨床整形外科学会学術受賞
・2008年 第3回日米宇宙・潜水・高気圧環境医学合同学会主催
・2008年 第7回杉田玄白賞受賞
・2008年 大分県医師会功労賞
・2009年 大分県知事賞受賞
・2011年 中津市長賞受賞
・2012年 日本整形外科学会功労賞受賞
・2012年 国際潜水・高気圧環境医学会（UHMS）学術賞
（インターナショナル・オーシャンアリング賞）
・2012年 国際潜水・高気圧環境医学会（UHMS）
特別名誉会員賞
・2013年 二豊マイクロ・ナノバブルフォーラム2013中津 主催
・2014年 国際医学フォーラム 主催
・2014年 中津市表彰（保健・環境衛生功労）
・2015年 第2回アジア太平洋潜水・高気圧環境医学会 主催
・2017年 第6回日本マイクロ・ナノバブル学会 主催
・2018年 平成30年秋の叙勲 旭日雙光章 受章

第7回日本マイクロ・ナノバブル学会に参加して

高気圧治療科 宮田 健司

2018年12月8日～9日に明治大学で行われた、第7回日本マイクロ・ナノバブル学会に参加・発表をしました。

マイクロ (μ) とは100万分の1を表し、ナノ (n) とは10億分の1を表しています。マイクロメートル (μm) やナノメートル (nm) サイズの気泡を溶液中で発生させることで、気泡の物理的な作用や使用する気体の種類によって様々な効力を持たせることができ、食品や医療・歯科、農業、汚染土壌の浄化などに活用されています。そのため、この日本マイクロ・ナノバブル学会は工学部・農学部・医学部の3分野から構成されて



講演する川島真人理事長

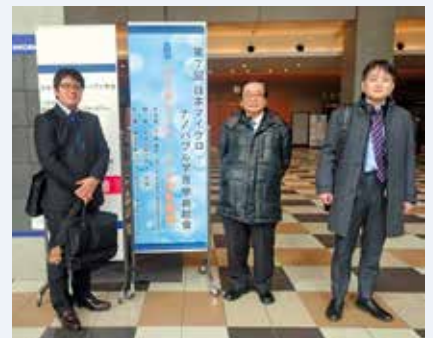


発表する私



発表する沖本稚佳子副施設長

おり、今回は福岡大学工学部化学システム工学科教授・三島健司学会長のもと開催されました。当法人からは川島真人理事長が特別講演にて『骨髄炎の局所持続洗浄療法におけるオゾンナノバブル水の利用』を発表し、一般演題では沖本稚佳子介護老人保健施設副施設長が『オゾンナノバブル水を併用した口腔ケアの効



会場前にて

果』を、そして私が『化膿性関節炎に対するオゾンナノバブル水の応用』を発表しました。通常、オゾンを溶解させただけでは短時間で溶液中からオゾンが抜け出てしましますが、ナノバブル化することで長期保存が可能となり、さらには浸透力も優れてきます。また、オゾンナノバブル水は抗菌薬や消毒薬と同等、またはそれ以上の殺菌力を有しているにも関わらず、アレルギーや組織障害作用が低いことで治療促進が期待されています。当法人では局所持続洗浄療法や創部の洗浄、口腔ケアに使用し良好な成績が得られており、その結果を報告しました。最後に、このような機会を頂き大変感謝しております。ありがとうございました。

第6回日本運動器理学療法学会学術大会に参加して

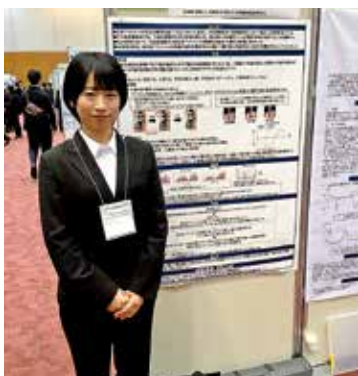
クリニックリハビリテーション科 理学療法士 羽田 見奈

2018年12月15日～16日に福岡国際会議場にて、第6回日本運動器理学療法学会学術大会が開催されました。羽田清貴主任、松田理学療法士、井原理学療法士と本大会で座長を務めた奥村科長とともに参加し、ポスター発表をさせて頂きました。

視点で自分自身の研究内容について考え直す機会にもなりました。

本大会テーマは、『挑む 運動器理学療法法の核心と革新』でした。学会最終日の最終セッションでの発表ということもあり私の心は緊張で曇り模様でした。しかし勉強になる演題や講演ばかりで、とても有意義な2日間を過ごすことができました。発表においても、沢山の方から質問を頂くことによって、新たな

また、博多は私が理学療法士になるために4年間過ごした地でもあり、母校の先生方をはじめ沢山の理学療法士の方々にもお会いでき、良い刺激を頂くことができました。本大会を通して学術面で得られたものも多くありますが、それだけでなく自分自身の理学療法士としての原点から今を見つめ直す機会にもなり、存分に充電できました。今後もこのパワーを発揮できるように精進していきます。



川寫整形外科病院での 1年を通して



医師 嵐 智哉

川寫整形外科病院にはじめて来たのが去年の4月であり、あつという間の1年間でした。様々な人と出会い、色々なことがある1年間で、かけがえない非常に大きな時間を過ごすことができたと思います。

川寫整形外科病院ではスタッフが一丸となり、患者さんに寄り添ったより良い医療を提供できるように、日々努力しているように感じました。そういつ



た面でも学ぶことは非常に多く、また多くの患者さんとお会いすることで、患者さんから様々なことを教えていただきました。一人ひとり訴えが違う患者さんから多くの事を学ばせていただいたと思います。これからもたくさんの方と出会い、ここでのご経験を生かして、より良い医療を提供できればと思います。1年間本当にありがとうございました。

新人研修を終えて

5階病棟 看護師 沖本 瑠星

2019年4月1日(月)〜3日(水)、川寫整形外科病院の玄真堂ホールにて新人集合研修が行われました。今回の新人集合研修は、私を含めた年齢の異なる多くの職種の新人が参加しました。3日間の研修では川寫理事長はじめ、



多くの方から講義をしていただき、玄真堂の特徴や機能、社会人として働くにはどうすれば良いか、接遇講座など様々な事を学ぶ機会を得ることができました。研修中は3つのグループに分かれ、それぞれに活発な討議、グループワークを行い、最初は馴染めませんでしたでしたがコミュニケーションを図ることでお互いの関係を築くことができました。グループワークの中では一人一人の意気込みや将来像について考え、話し合いを行いました。3日間の研修を通して、それぞれに今後の目標を見出すことができたと考えます。



たことに感謝の気持ちを忘れずに、私たち新人はこれから自分の目指す将来像を目標に日々切磋琢磨し、個々の能力向上、スキルアップを目指し、今後の玄真堂を支えていきたいと思えます。また、今回同じ研修を受けた玄真堂の新人同士つながりや、絆を大切に、地域の方々、患者さんに安心、安全、安らぎのサービスを提供し、貢献していきたいと思えます。





七味唐辛子



麻酔科部長
原西 保典

七味唐辛子は江戸時代に漢方薬を研究していた中島徳右衛門という人物により商品化されました。当時蕎麦にびつたりととても人気があったそうです。現在では多くの種類の七味唐辛子が発売されていますが、その成分は基本的に「二辛五香」とされていて、一般的に辛さに特徴があるものが2つと、香りに特徴をもつものが5つ配合されています。主な原料は赤唐辛子、山椒、胡麻、陳皮、紫蘇、ケシの実、麻の実などで、他に柚子、生姜、青海苔などがそれぞれに

特色を持たせるために様々な配合でブレンドされています。このうち赤唐辛子にはカプサイシンという物質が含まれています。このカプサイシンは発痛物質として知られていて、人が摂取すると痛みサイクルが促進し疼痛を感じます。ところが、このカプサイシンを痛みに負けず摂取し続けると驚くことに人は痛みに鈍くなり、最終的には鎮痛の状態が得られることが報告されました。この脱感作用を利用して現在ではカプサイシン軟膏が鎮痛薬として処方されています。敵を取り込み続けるとそのうち味方になるという戦国武将が喜びそうな挑戦に最初にトライした人物は尊敬できます。まさに新規開拓の精神です。ちなみに中島徳右衛門の店は現在も立派に営業しています(1625年、屋号は「やげん堀」、浅草)。

第27回院内TQM発表会を終えて

手術室・看護師 上田 亜紀

2019年3月2日(土)に行われた第27回院内TQM発表会で1位を頂き、ありがとうございました。

今回、手術室では業務の効率化を図るため、滅菌管理している器材の整理に着目し、TQM活動を行いました。手

術室で滅菌管理している器材は1366個、毎月、器材の期限切れやパック破損の有無、再パック詰めには約4時間かかっていることがわかりました。1366個の器材の中には使用頻度が少ないもの、全く使用されていないものも多く、医師らと器材を滅菌管理する必要、不要の選別や、スタッフ間で個数の調整を行いました。また、収納場所や器材の名称がわかるよう、滅菌パックに収納する場所(棚)と器材の名称を記載するようにしました。結果、滅菌管理している器材は612個に削減、毎月、器

材のチェック等にかかる時間が約2時間に短縮することができました。

毎月のチェックに対して数多く大変など、不満もっていたスタッフでしたが、改善後は不満足意見がなくなり、前向きに取り組めるようになりました。そして

今回、滅菌管理する器材の見直しを行うことで、器材の整理整頓や感染管理における環境整備、滅菌パックのコスト削減に繋がりました。

協力していただいた医師や手術室スタッフに感謝し、今回の活動が継続できるように、医師と調整しながら手術室スタッフ全員で取り組んでいきたいと思っております。



く、医師らと器材を滅菌管理する必要、不要の選別や、スタッフ間で個数の調整を行いました。また、収納場所や器材の名称がわかるよう、滅菌パックに収納する場所(棚)と器材の名称を記載するようにしました。結果、滅菌管理している器材は612個に削減、毎月、器



当院で行っている 省資源・省エネルギー

省資源・省エネルギー委員会 クリニック外来副主任 野村 路子

かわしまクリニックは平成23年度に設立し、地下熱利用換気システムを導入しています。そのため夏は涼しく、冬は暖かくなっております。

また、電力の消費を少しでも抑えることで、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素の排出の削減にも努めています。内閣府と同じく、冬季は19℃、夏季は28℃で室温の適正管理をしております。さらに温度だけでなく、使用紙類の低減（両面印刷、裏面利用）、エコドライブの実践など、省資源・省エネルギーに全職員で取り組んでいます。最近では

LEDの導入が比較的進んでいますが、家庭でも積極的に取り組める内容ではないでしょうか。他にも

具体的な対策として①定期的な機器の清掃（エアコンや換気扇のフィルター・照明器具など）②熱源・給水・排水・空調設備の運転制御（補修・交換など含む）③スイッチ付テーブルタップを利用したコンセント個々のON/OFF管理（待機電力削減、不用機器停止）④ランプの取り外しによる間引き、過剰な照明を消す（電力削減）⑤カーテン・ブラインドの調節⑥全般照明から局部照明⑦窓の開放⑧冷

房・暖房時のカーテンによる断熱、扇風機併用⑨クルビズ、扇子やうちわの利用、すだれの設置、ミストの散布、屋上緑化⑩ひざ掛け、こたつの使用、こたつ布団を重ねるなど、家庭でも取り組めることはたくさんあります。

当院でも活用している対策も多く、一人ひとりが意識して取り組むことが節電に繋がりますし、地球を守ることもなります。ぜひ、参考にしてみてください。



なのみひな祭り

介護老人保健施設なのみ 柚木 尚美

2019年3月3日（日）に「ひな祭り」を開催しました。古来日本では、女子の健やかな成長を祈る節句の年中行事として慣れ親しんできました。

入所されていた利用者様のご家族より頂いた「由緒ある雛飾り」も飾り始めて今年で7年目となりました。雛飾りをバックに、利用者様おひとりずつ澄ましたお顔で「はい！にっこり」と記念撮影。素敵な笑顔を見せてくださいました。

ゆったりとした日曜日、一足早い春の訪れを感じる一日となりました。



「肩関節拳上面の違いにより可動域改善が異なった症例の検討」

尾道理学療法士発表

「足関節外果骨折術後の階段降段動作に着目した一症例」

羽田野理学療法士発表

「両上肢骨折患者における術後急性期の治療経験」

釘宮理学療法士発表

「腰椎椎間関節由来と考えられる下肢痛を呈した患者に対する理学療法の一考察」

中野理学療法士発表

「上肢拳上動作にて疼痛を訴え上肢機能低下を呈した症例の一考察」

牟田口理学療法士発表

「鎖骨遠位端骨折術後理学療法において肩関節水平内転の可動域に着目した一症例」

植田理学療法士発表

2019.2.16

第40回九州手外科学研究会 (長崎県)

「環指MP関節拳側脱臼の1例」

古江第二診療部長発表

院内勉強会

モーニングセミナー

2018.12.21

「DPC係数を考える～診療情報管理士DPCコースを受講して～」

大川医事課課長

2019.1.18

「安全管理2019」

永芳副院長

2019.2.15

「未コード化傷病名について～質を問われる時代です～」

岡部診療情報管理士

「記録記載について」

立川診療情報管理士

カワシマハンドセラピー研究会

2018.12.17

「示指PIP関節掌側脱臼の一例」

石井作業療法士

「屈筋腱断裂後の理想的なりハビリ」

岸本クリニックリハビリテーション科副主任

院外発表・講演

2018.12.2

PIEGLLO STUDY研修会 (長崎県)

「股関節症をみる」～病状把握から臨床展開まで～

奥村病院リハビリテーション科科長講演

2018.12.8

平成30年度日本体育協会公認指導者養成講習会

(大分県)

「軟式野球の発育発達の子供への指導、体力トレーニングとコンディショニング、ジュニア選手の指導実習」

奥村病院リハビリテーション科科長講演

2018.12.8～9

第7回日本マイクロ・ナノバブル学会学術総会

(東京都)

「骨髄炎の局所持続洗浄療法におけるオゾンナノバブル水の利用」

川島理事長講演

「化膿性関節炎に対するオゾンナノバブル水の応用」

宮田高気圧治療科技師発表

2018.12.15～16

第6回日本運動器理学療法学会学術大会 (福岡県)

「変形性股関節症患者の股関節可動域と歩行中の骨盤-大腿の同相運動との関連性」

井原理学療法士発表

「初期変形性膝関節症患者の歩行時における膝関節の運動力学的特性について」

羽田クリニックリハビリテーション科主任発表

「振り返り動作における下肢回旋量-後足部アライメントの相違に着目して-」

羽田理学療法士発表

「変形性膝関節症に伴う高度膝関節屈曲制限例の特徴について」

松田理学療法士発表

2018.12.23

第44回御茶の水整形外科卒後研修セミナー・第101回東京医科歯科大学整形外科集談会 (東京都)

「苦楽吉祥の人 学祖島峰徹」

川島理事長講演

2019.1.26

大分学研究会 第46回例会 (大分市)

「中津藩のパイオニア精神について」

川島理事長講演

2019.2.3

第21回大分県理学療法士学会

(別府市)

膝関節勉強会

- 2018.12.12
「膝前十字靭帯の一次修復について」
本山第一診療部長
- 2019.1.9
「膝関節の受動的・能動的制御機構について」
植田理学療法士
- 2019.2.13
「膝蓋骨脱臼について」
友松理学療法士

看護部勉強会

- 2018.12.10
「口腔ケアについて」
- 2018.12.17
「記録監査」
- 2019.1.7
「医療安全」
- 2019.1.21
「リーダー体験・研修をおえて」
- 2019.2.18
「褥瘡勉強会「スキンケア」について」

- 2019.1.21
「指節骨骨折、左環指基節骨骨折の一症例」
杉木リハビリテーション部部長代理
「RA腱移行後のリハビリ」
川端作業療法士
- 2019.2.18
「尺骨茎状突起骨折を伴った橈骨遠位端骨折の一症例」
大嶋作業療法士
「EPL断裂EIP移行後のリハビリ」
川端作業療法士

川島肩をカタろう会

- 2019.1.28
「頸部郭清術後に肩関節機能障害を呈した症例を経験して」
松尾理学療法士
- 2019.2.25
「自験例肩関節周囲炎の可動域の推移」
辛嶋クリニックリハビリテーション科副主任

医局抄読会

第1、2、4火曜日の朝7時45分スタート

- 2018.12.25
大腿骨頸部疲労骨折：MRIリスクファクター
嵐医師
- 2019.1.8
高位脛骨外反骨切り：閉鎖式、開放式もしくは混合式？膝蓋骨の高さが決定する要因か
本山第一診療部長

- 2019.2.12
モンテジア骨折見のがし例の手術成績
古江第二診療部長
- 2019.2.26
45歳以上の患者の再骨折：患者22,060人の前向き研究
川島眞之院長

論文（共同含）・誌上発表

- 川島眞人：整形外科発祥と中津～整形外科の生みの親。中津市医師会会報第57号。：26-29, 2018.
- 川島眞人：秋の叙勲 ご挨拶。東京医科歯科大学医科同窓会 会報。(282)：13, 2019.
- 川島眞人：「杉田玄白と前野良沢」～「解体新書」を巡って～。北陸医史第41号。：3-12, 2019.



第36回玄真堂友の会

事務局総務部副主任 瀬口 清美

少し風が強く心配しましたが、暖かな日差しも見受けられた3月16日、玄真堂友の会は、今春で第36回目を迎えました。玄真堂友の会と名称を変更してからは第5回目となります。

当時、骨髄炎友の会から玄真堂友の会に移行する第1回目の際、私は社会奉仕委員会の

委員長として主に活動を行っておりましたので、私自身にとつても感慨深い会となりました。

今年度の新しい取り組みとして、5年連続会員に在籍している方に少しでも感謝の意を表すべく心ばかりの贈り物をお送りする事が決定されました。また、毎月一般の方向けに開催している健康教室の内容を上映しました。早くから来て頂いている患者さんにむけて少しでも健康面の新しい情報を共有させて頂きたい計画致しました。

ケーナ演奏では郷愁あふれる曲を披露、コーラスでは春がテーマの曲を選曲し、暖かな春の足音を感じて頂けたのではないかと思います。



残念だった点としては、意見交換の場において何もご質問などなく終わってしまった事です。「この時間にこそ多くの時間がとれるように発展させていきたいね」と職員同士語り合い、来年度も患者さんに春を感じて頂くべく友の会の運営を法人職員全体で行ってまいりたいと思います。



お詫びと訂正

2019年1月25日発行の『ラ・サンテ141号』の2・5ページ、『アジア太平洋潜水・高気圧環境医学会』開催日におきまして誤りがありました。正しくは以下の通りです。

- ・ P 2 3 段17行目 (正) 『10月25～26日』
- ・ P 5 3 段6行目 (正) 『10月25～26日』

読者の皆さま並びに関係各位に「迷惑をお掛けしましたこと」をお詫びするとともに、「ここに訂正させて頂きます。」

(社会医療法人玄真堂 広報委員会)

編集後記

木々の緑も色鮮やかな季節となりました。4月になり当院にも新入職員を迎え、活気に満ちあふれています。次号より新・広報メンバーでの始動開始となります。今後も当院広報誌ラ・サンテをご愛読くださいますよう、よろしくお願ひ致します。

(Y・N)

【患者様の権利と患者様の責務】

患者様は、個人としての尊厳が守られ、平等で最善の医療を受ける権利を有するとともに、医療を効果的にするために守って頂きたい事項があります。

[患者様の権利]

1. 病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2. 人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善の医療を受ける権利があります。
3. 医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4. 医療内容について自分で選択し決定する権利があります。
5. 自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
6. 自己の診療記録の開示を求める権利があります。
7. プライバシーや個人情報を保護される権利があります。
8. 健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
9. 安全を確保される権利があります。

[患者様の責務]

1. 医療提供者に対し、患者様ご自身の健康に関する情報の提供
2. 他の患者様の療養生活に支障を与えない配慮
3. 早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守
4. 円滑な医療行為の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
5. 早期回復の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
6. 診療費の遅滞ない支払い